

展示室 1 郷土の美術 ふるさとへの想い



佐藤昭一
「シリーズ人間-Sさんのトマト-」

安達太良山や阿武隈山系につつまれ、猪苗代湖や阿武隈川の豊かな潤いに満たされたまち、郡山。郡山は明治のはじめに、猪苗代湖から水路を通じた安積疏水と安積開拓によって、発展の礎を築きました。太平洋戦争では、多くの尊い命が失われ、郡山駅周辺は壊滅状態となりました。それでも、復興への力強い努力によって、さらなる発展を遂げました。

2011 年 3 月 11 日。この日は私たちにとって忘れられない日となりました。郡山は、これまでも多くの苦難を乗り越えてきた歴史があります。この展示では、戦後の日本美術のなかから、主に郡山を拠点に活躍した美術家たちを特集します。先人たちの想いのこもった作品から、明日への希望を少しでも得ていただければと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤昭一	シリーズ人間-Sさんのトマト	1979 (昭和 54) 頃	油彩、アクリル・キャンバス	
相田直彦	海浜風景		グワッシュ・紙	
相田直彦	漁村		水彩・紙	
吉井 忠	敗れたる風景	1946 (昭和 21)	油彩・キャンバス	吉井忠氏寄贈
吉井 忠	浄土平		油彩・キャンバス	寄託作品
吉井 忠	阿久津橋		水彩・紙	寄託作品
菊地養之助	農民B	1954 (昭和 29)	紙本着色	菊地一郎氏寄贈
菊地養之助	鳩のいる家族	1962 (昭和 37)	紙本着色	菊地一郎氏寄贈
青津清喜	窓際	1950 (昭和 25)	油彩・キャンバス	
土橋 醇	星雲	1963 (昭和 38)	油彩・キャンバス	
安藤重春	みちのく (蓮田の道)	1966 (昭和 41)	紙本着色	
常盤大空	殷賦考	1962 (昭和 37)	岩絵具・キャンバス	
鎌田正蔵	白日夢	1938 (昭和 13)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	製塩工場小名浜	1947 (昭和 22)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	製塩工場	1947 (昭和 22)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
佐藤昭一	自分と石膏とマンドリンと壺	1948 (昭和 23)	油彩・キャンバス	佐藤昭一氏寄贈
黒沢吉蔵	北の山湖	1966 (昭和 41)	紙本着色	黒沢吉蔵氏寄贈
三木宗策	威容包慈 (坂上田村麻呂像)	1924 (大正 13)	木彫	
佐藤静司	風紋	1976 (昭和 51)	木彫	

展示室 2 イギリスの風景画名作選



アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ
「箱根の秋」

当館のコレクションの中から、イギリスの画家たちが描いた、イギリスと日本の風景画をご紹介します。

牛や羊たちが遊ぶ田園風景、廃墟となった城跡や塔、池で釣り糸をたれる人影……。イギリスの風景画には自然を克明に描き出しながら、そのなかに美を見出そうとする真剣な眼差しが感じられます。

また、明治時代に日本へ来日したイギリス人の画家たちが描いた風景画には、美しい日本の自然や当時の人々の暮らしが生き生きと描かれています。遠く離れた東洋の島国の自然は、彼らの目にはどのように映ったのでしょうか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
サー・エドワード・コラー・パーソンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダーブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・ヴァーレー	ポントシスリット・アクアダクト	1826	水彩・紙
トマス・ゲインズボロ	牧夫と牛のいる森の風景	1758 頃	鉛筆・紙
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815 頃	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807 頃	油彩・キャンバス
ジョン・セル・コットマン	ルアン、ラ・ビュセル広場のブルテルルド館	1823	水彩・紙
ジョン・セル・コットマン	フェカンのロマネスク遺跡		鉛筆・紙
ポール・サンドビー	ウォーリック城シーザー塔	1778～82	水彩、ペン、インク・紙
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798 頃	水彩・紙
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス
サー・アルフレッド・イースト	雨後の傘干し	1889～90 頃	水彩・紙
サー・アルフレッド・イースト	荒れ模様		水彩・紙
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	箱根の秋		水彩・紙
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	鎌倉の茶屋		水彩・紙
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光の茶屋	1890	油彩・板
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	雪の京都、祇園へゆく道	1891	水彩・紙

展示室3 日本の近代美術



白滝幾之助
「編物をする少女」

当館では、日本の近代美術をコレクションの大きな柱のひとつとしています。

開国以降、新たにもたらされた西洋の絵画技法に取り組んだ画家たちによって、風景表現や人物表現に新境地が開かれていきました。高橋由一や亀井竹二郎らは、明治の初期にいち早く油彩を用いて日本の風景などを描いた先駆者たちです。イギリスで中心的に発達した水彩画のジャンルでは、三宅克己や大下藤次郎らが活躍し、明治の後半に日本で水彩画の一大ブームが巻き起こりました。今回は、当館コレクションの主要作品を介して明治、大正、戦前の昭和までの近代美術の流れを辿ります。それぞれの時代の感性に呼応しつつ、個々の表現の在りかを真摯に追い求めた画家たちの傑作をどうぞご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
高橋由一	風景（鳥海山）	1880 年	油彩・キャンバス
亀井竹二郎	〈石版『懐古東海道五十三驛真景』油彩原画〉から	1877～78(明治10～11)	油彩・紙
諫山麗吉	甲州猿橋		油彩・キャンバス
伊藤快彦	夏の静物		油彩・板
山本芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス
石川寅二	房総風景	1923～24(大正12～13)	油彩・キャンバス
浅井 忠	収穫	1893(明治26) 頃	油彩・紙
和田英作	上総風景	1897(明治30)	油彩・キャンバス
白滝幾之助	編物をする少女	1895(明治28)	油彩・キャンバス
藤島武二	「耕到天」習作	1936(昭和11)	油彩・キャンバス
中村彝	朝顔	1923(大正12)	油彩・キャンバス
恩地孝四郎	黒い机	1922(大正11)	油彩・キャンバス
木村莊八	道のある風景		油彩・キャンバス
安井曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス
三宅克己	箱根		水彩・紙
大下藤次郎	赤木駒ヶ岳の紅葉	1907(明治40)	水彩・紙
石川欽一郎	信州の田舎		水彩・紙
吉田 博	風景		水彩・紙
小寺健吉	飯坂温泉		水彩・紙

展示室4 本の美術



『波間の錦』表紙

額に入った絵や掛け軸はなくても、本は、どんな家でもあるものといえるでしょう。私たちにとって身近な本。挿絵や表紙、装丁が美しいものであれば、それは私たちが最初に出会う美術作品といえるかもしれません。身近で親しみやすいがゆえに、見落とされている美術作品としての本の重要性—当館では、あらためてその重要性を考えるため、作品収集の柱のひとつとして本（版）の美術をうたっています。

作者名	作品名	制作年	技法・形状
大蔵省印刷局	『国華余芳 正倉院御物』	1880(明治13)	石版/本
大蔵省印刷局	『国華余芳 古書之部』	1880(明治13)	写真石版/本
大蔵省印刷局	『波間の錦』	1883(明治16)	石版/本
大蔵省印刷局	『朝陽閣鑑賞錦繡帖 巻上』	1883(明治16)	木版/本
大蔵省印刷局	『朝陽閣鑑賞錦繡帖 巻下』	1883(明治16)	木版/本
森 琴石	『日本地誌畧附圖』	1877(明治10)	銅版、木版、着彩/本
石田旭山	『京都名所めぐり』		銅版、木版、着彩/本
	『雙鸞春話』(原著:ピコンスフィールド)	1887(明治20)	(画)岡村政子(推定)(表紙・挿画)石版/本
	『梅蕾餘薫』(原著:スコット)	1887(明治20)	(画)岡村政子(表紙・挿画)石版/本
	『革命餘聞 英雄之世路』	1888(明治21)	(表紙)石版/本
	『西洋徳婦美譚』(原著:カークス)	1892(明治25)	(挿画)木口木版/本
	『佳人之奇遇』巻1、3、5(著:東海散士)	1885(明治18)(巻1・3)	(画)小柴英侍他(挿画)石版/本
		1886(明治19)(巻5)	
	『日の出島』(著:村井弦斎)表紙(「鶴亀の巻」、「新高の巻」)		
水野年方(画)	『日の出島 富士の巻』口絵	1897(明治30)	木版
鈴木華邨(画)	『日の出島 蓬萊の巻』口絵	1897(明治30)	木版
山中古洞(画)	『日の出島 東雲の巻』口絵	1900(明治33)	木版
川西 英	『曲馬写生帖』	1934(昭和9)	木版/本
川西 英	『カルメン』	1934(昭和9)	木版/本
織田一磨	『書窓版画帖十連聚其一 都会生活』	1941(昭和16)	石版/本
川上澄生	『書窓版画帖十連聚其三 文明開化往来』	1941(昭和16)	木版/本
武井武雄	『書窓版画帖十連聚其六 宇宙説』	1942(昭和17)	木版/本
恩地孝四郎	『書窓版画帖十連聚其八 蟲・魚・介』	1943(昭和18)	木版/本
山下清澄	『幻想庭園』(詩:マンディアルグ)	1983(昭和58)	エッチング、アクアチント/ポートフォリオ
柄澤 齊(画、刻)	『鑿I』より「メリヨンへの手紙」	1979(昭和54)	木口木版
城所 祥(画、刻)	『鑿II』より「日々」、「リンゴ」	1980(昭和55)	木口木版
バーン=ジョーンズ(画)	ケルムスコット・プレス版『世界の果ての泉』(著:W・モリス)	1896	木口木版/本
トマス・ビューイック(画、刻)	『英国鳥類誌第二巻 水鳥編』初版	1797	木口木版/本
ジョセフ・クロホール(画、刻)	『クロホールの呼売本の花冠』	1883	木口木版、手彩色/本
ジョセフ・クロホール(画、刻)	『古風な版画集』	1889	木口木版、手彩色/本
リケッツ(画)、シャノン(刻)	『ダフニスとクロエ』(著:ロンゴス)	1893	木口木版/本
A・J・ギヤスキ	『童謡集』	1895	木口木版/本
W・B・マクドゥーガル	『イザベラ、バジルの壺』	1898	木口木版/本
リュシアン・ピサロ(画)、エスター・ピサロ(刻)	『眠れる美女と赤ずきん』	1899	木口木版/本
ダルジール兄弟(刻)	『ソーンバリー 叙事詩』表紙	1876	(挿画)木口木版/本
ダルジール兄弟(刻)	『ゴールドスミス作品集』表紙	1859	(挿画)木口木版/本
ダルジール兄弟(刻)	『ワーズワース詩集』表紙	1859	(挿画)木口木版/本
ウィリアム・ニコルソン	『アルファベット』	1898	石版/本
ウィリアム・ニコルソン	『ロンドン・タイプス』	1898	石版/本
デイヴィッド・ボンバーグ	『ロシア・パレー』	1914~19	カラーリトグラフ/本
ポール・ナッシュ	『イワン・ヴァジリエヴィッチ皇帝と彼の若い護衛隊と勇敢なカラシュニコフ商人の歌』(著:ユーリーヴィッチ)	1929(挿画)	木口木版/本
デイヴィッド・ホックニー	『六つのグリム童話』	1969~70	銅版/本

展示室4 ガラス百態



佐藤潤四郎
「奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器」
(控) No.1

佐藤潤四郎のガラス作品が郡山市立美術館の代表的なコレクションとして収蔵されているのは、潤四郎が郡山市生まれであること、そして日本の近代ガラス工芸の歴史を代表する作家であること、この2点からです。

潤四郎の作品の最大の特徴は「ガラスらしからぬ温かさ」といえます。ややもすれば冷たく、お高くとまった非大衆的なイメージのガラスという素材ですが、潤四郎の作品にはなんともいえない温もりがあります。それは潤四郎の持って生まれた人柄というものもありますし、その人柄は東北生まれ、郡山生まれという生まれ故郷の持つ「風土性」からきているのでしょう。潤四郎はわたしたちのふる

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	花器	1986	型吹き・カット、エッチング	
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986	宙吹き	
佐藤潤四郎	花器・ちょっと考えて(樹)		宙吹き・グラヴェール	
佐藤潤四郎	花器	1986	型吹き・カット、エッチング	
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986	宙吹き	
佐藤潤四郎	花器・ちょっと考えて(樹)		宙吹き・グラヴェール	
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器	1986	鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車		宙吹き・プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯(グリーン)		宙吹き・プランツ	長谷川貴子氏/石川和子氏寄贈
佐藤潤四郎	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962頃	宙吹き	川崎清氏寄贈
佐藤潤四郎	大杯・ワインを造る		宙吹き・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		型吹きなど	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	花器		宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	ブルー花器		宙吹き	
佐藤潤四郎	ガラスの神様文瓶		宙吹き・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1986	宙吹き・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973～76頃	宙吹き・サンドブラスト	(株)ノリタケクリスタル寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・ガラスを吹く人		鍛鉄	寄託作品
佐藤潤四郎	魚(オレンジ)	1973～76頃	宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	魚(ブルー)	1973～76頃	宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡ロータス	1984	サンドブラスト、エッチング	
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		宙吹き・サンドブラスト	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺西塔舍利器(試作)	1978	宙吹き・エッチング、プランツ	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器(控) No.1	1980	宙吹き・カット	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器カバー(控) No.1	1984	宙吹き・プランツ	
佐藤潤四郎	舍利器		宙吹き・カレット融着	
佐藤潤四郎	クリスタル六角鉢		宙吹き	
各務鑛三	クリスタル花瓶《鱗影》	1970頃	宙吹き・気泡封入、グラヴェール	田淵十一氏寄贈
吉田丈夫	クリスタル瓶《瓢》		宙吹き	田淵十一氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階エントランス				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
●1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
●2階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	寄託作品
佐藤静司	女の首	1971(昭和46)	木彫	
三坂耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ	
植木茂	体		木彫	
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	